報告　令和元年度地域保健等に関する調査研究助成について

◇地域保健部◇

北海道医師会では、本道の地域保健等の向上･推進に資する調査研究活動への助成事業を実施しております。昨年度は以下７つの調査・研究に対して助成いたしました。

調査・研究内容については、北海道医師会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

●掲載はこちら　　北海道医師会トップページ　→　北海道医報　→　2020年９月１日［第1224号］

■執筆者　星井　桜子（札幌市医師会/札幌市学校医協議会）

テーマ　札幌市の学校検尿の成績と課題

札幌市の学校検尿システムの歴史は長い。

検尿判定委員会は、札幌市教育委員会とともに、検尿スクリーニングシステムが適正かつ有効に機能するために、検討を重ねてきた。最近数年間の札幌市学校検尿の成績を要約し、その問題点と今後の検討課題を整理した。

■執筆者　中田　勝義、上野　哲治（札幌市医師会/札幌市学校医協議会）

テーマ　札幌市の学校でのスポーツ眼外傷の診療所の受診率を調査し予防（スポーツ保護眼鏡）と対策を検討した

札幌市の児童生徒のスポーツ眼外傷の診療所の受診率を調査、予防を検討した。米国眼科学会ではスポーツ眼外傷の90％はスポーツ保護眼鏡で予防できるとしているが、わが国では普及が進まない。一因として安全規格が本邦にない。そこで眼鏡店で購入したスポーツ保護眼鏡を独自の安全強度試験を実施検討した。

■執筆者　新谷　朋子、高木　摂夫（札幌市医師会/札幌市学校医協議会）

テーマ　札幌市小中学校耳鼻咽喉科健診結果の全国調査との比較検討

平成28年度より行われている日本耳鼻咽喉科学会学校保健会の全国調査と同時期に行った５年間の札幌市耳鼻咽喉科学校健診の結果を集計し、中耳炎、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎など各疾患を全国調査結果と比較検討した。

■執筆者　水関　　清、平田　博己、中島　滋夫（函館市医師会/函館動脈硬化懇談会）

テーマ　家族性高コレステロール血症（FH）におけるアキレス腱超音波像の検討・第３報

FH診断基準の一つであるアキレス腱肥厚は、従来からＸ線法で計測されてきた。Ｘ線法による前後径が正常でも超音波法では、前後径と横径の比の増大・内部エコーの不整像・腱内の限局性低エコー域の存在を捉え得た。早期発見が望まれるFH診断における超音波法の有用性が示唆された。

■執筆者　松浦　智和、今野　聖士、中島　泰葉、結城　佳子、若林　　智、刀禰　聡美、坂田　　仁
（上川北部医師会/名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター）

テーマ　過疎・寒冷積雪地域における買い物環境と心身の健康、生活の質（QOL）に関する調査

近年の「買い物困難者」に関わる諸課題の検討の基礎資料を作成すべく、Ｓ市において住民の買い物環境のアンケート調査を実施した。その結果、「移動販売」や「公共交通の充実」より自分で選ぶという意向をベースとした「店舗出店」への期待が高いことが明らかとなった。

■執筆者　古田　博文、吾田富士子、吉木　美恵（北海道保育保健協議会）

テーマ　北海道における保育園での安全対策について
－地震後１年の対策と日常の園内外の状況調査－

昨年の地震直後の調査で、子どもたちの心理面に関する知識や日頃の震災に対する備えの必要性が明らかとなった。さらに大津市の事故により全国各地で緊急に園の散歩コースの見直しを行ったことを受け、地震後の具体的な見直し、園での安全対策について調査を行った。

■ 執筆者　土畠　智幸、川村健太郎（北海道小児科医会/医療法人稲生会）

テーマ　「小児在宅医療における病診連携」に関する研究

小児在宅医療には在宅医と病院主治医の連携が欠かせず、また成人に達した患者の移行期医療の課題も多い。そこで小児専門病院、在宅療養後方支援病院、成人及び小児専門の在宅療養支援診療所の医師等とともに、小児在宅医療に特有な病診連携のあり方について協議を重ね、報告書にまとめた。